

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

情 報 局 編 輯

週 報

五月二十六日 號

昭和十八年五月二十六日 第三種郵便物認可 (毎週一冊水曜日發行)

直面する世界戦局

東郷元帥の遺訓と總力戦

日本海海戦と大東亞戦争

米英撃滅に驀進だ!

六月の常會の手引

國家總動員計畫 ②
生産擴充計畫問答

345 號

五 錢

週報は民翼賛の道しるべ

航空機乗員養成所

操縦生募集



航 空 局

週 報

昭和十八年五月十一日 第三種郵便物認可 (毎週一冊水曜日發行)

内閣印刷局印刷發行

(本書の大きさは國定規格[A5]判)

「十八年度は、日、獨いづれを正面の敵とするか」

輿論調査機關ギャラップの問ひに對して、米國民の五三%（昨年は一五%）は、

「日本を主敵とすべし」

と率直に返答し、對日總反攻の氣勢を揚げてゐる。

われ／＼は今こそ、戦局に對して絶対に、一喜一憂することなく、

米英撃滅の決意新たに、

一發でも多くの彈丸を

一機でも多くの飛行機を

一人でも多くの人を

送り、兵隊さんに思ふ存分戦つて貰はうではないか。

週報

第三四五號
五月二十六日

直面する世界戦局

日本海軍と大東亞戦争

山本司令長官を悼む

軍艦元帥の遺訓と總戦力

大東亞海軍報道部

六月の當會の手引

農繁期の國民皆僑運動大政宣賛會

岡のよき防衛必勝の陣

完遂しよう、百七十億野畜

わが隣組の戦時忠告

「招村」の戦争生活例當選発表

生産擴充計畫問答 企 畫 院

週日問誌

五月十四日(金)

▽米軍のアツ島上陸(一二日)に關し大本營發表

五月十五日(土)

▽東久瀨宮威厚王殿下と照宮成子内親王殿下の御結婚の儀勅許あらせられた旨、宮内省發表

▽中支軍部隊の洞庭湖畔作戦結果(五、五、五)を大本營發表

五月十六日(日)

▽青木大東亞大臣、南方視察を終へ、歸京

五月十七日(月)

▽海軍航空部隊のメラウケ、ガダルカナル島爆撃とルツセル島上空空戦(敵機墜落十八機を撃墜)を大本營發表

五月十八日(火)

▽北支第二十四集團軍軍長

評無効の國民政府合體(六日)に關し大本營發表

五月十八日(火)

▽陸軍部隊のモンドウ占領(十四日)とアラン方面戦果(五、五、五)を大本營發表

五月十九日(水)

▽昭和十八年度交易計畫、關藥品等需給計畫を閣議で決定

五月十九日(水)

▽興亞運動強化に關する件(本日日本新聞記者會新中報協を發意)を閣議で決定

五月十九日(水)

▽皇后陛下、戦後國民を御慰問のため東京市内四ヶ所に行啓あらせらる

▽敵飛行機、潜水艦の陸軍病院船に對する不法攻撃につき大本營發表

五月十七日(月)

▽北支第二十四集團軍軍長

五月十七日(月)

▽北支第二十四集團軍軍長

「十八年度は、日、獨いづれを正面の敵とするか」

輿論調査機關ギャラップの問ひに對して、米國民の五三%昨年比五%は、

「日本を主敵とすべし」

と率直に返答し、對日總反攻の氣勢を揚げてゐる。

われは今こそ、戦局に對して絶對に、一喜一憂することなく、

米英撃滅の決意新たに、

一發でも多くの彈丸を

一機でも多くの飛行機を

一人でも多くの人を

送り、兵隊さんに思ふ存分戦つて貰はうてはないか。

週報

第三四五號 五月二十六日

直面する世界戦局……………二

日本海海戦と大東亞戦争……………三

山本司令長官を悼む……………三

東郷元帥の遺訓と總戦力……………三

大木營海軍報道部

六月の當會の手引

農繁期の國民皆働運動 大政翼賛會……………三

固めよう防空必勝の陣……………三

完遂しよう二百七十億貯蓄 大藏省……………三

わが隣組の戦時農園……………三

「頼得し」戦争生活例當選發表……………三

生産擴充計畫問答 企畫院……………三

週日間誌

- 五月十四日(金) 蘇聯勳の國民政府合體(六日)に關し大本營發表
- 五月十五日(土) 陸軍部隊のモンドウ占領(全四日)とアラカン方面戦果(連発死傷約六千四百、俘虜約五百七十、その他を大本營發表)
- 五月十六日(日) 昭和十八年度交易計畫、醫藥品等供給計畫を閣議で決定
- 五月十七日(月) 興亞運動強化に關する件(大日本興亞同盟を發着新中樞機構を設け)を閣議で決定
- 五月十八日(火) 皇太后陛下、職ふ統後國民を御巡覽のため東京市内四ヶ所に行啓あらせらる
- 五月十九日(水) 敵飛行機、潜水艦の陸軍病院船に對する不法攻撃につき大本營發表
- 五月二十日(木) 北支第二十四集團軍軍長
- 五月二十一日(金) 海軍航空部隊のメラウケ、ガダルカナル島爆撃とルツセル島上空空戦(敵機四機三十八機を撃墜)を大本營發表
- 五月二十二日(土) 青木大東亞大臣、南方視察を終へ歸京
- 五月二十三日(日) 海軍航空部隊のメラウケ、ガダルカナル島爆撃とルツセル島上空空戦(敵機四機三十八機を撃墜)を大本營發表
- 五月二十四日(月) 北支第二十四集團軍軍長

直面する世界戦局

激化した世界戦争の真只中に、第三十八回海軍記念日を迎へ、我々は日露戦争から大東亞戦争へ飛躍した皇國の世界的地位といふものに今更ながらの威銘を覺えんと共に、當面する世界情勢を直視するに當り、我々は實に皇國の興廢を賭けた決戦に臨んでゐることをひし／＼と感ずるのである。

まづ歐洲を大觀しよう。全世界の注目を集めてゐた北阿戰局に關して、ヒトラー總統大本營は去る五月十三日、

「獨伊兩軍アフリカ部隊の英雄的戦闘は、こゝに光榮ある最後を告げた。チュニス市近郊において最後の抵抗を繼續してゐた部隊は、過去數日間互に、水も食糧もなく、しかも奮戦をつゞけたが、つひに彈藥つきて戦闘を停止するのやむなきに至つた。チュニジア戦線における樞軸軍の優秀なことは、敵軍もしば／＼認めるところであるが、樞軸軍は敵軍の攻撃に屈伏したのではなく、結局、補給の缺乏に屈服したのである。しかしながら獨伊アフリカ部隊は負託された任務を完全に果した。彼等は數ヶ月にわたり激戦をつゞけ、寸地を容易に譲らず、有力な敵軍部隊をアフリカ戦線に釘づけにし、敵軍に對し人員資材兩面にわたり、極めて甚大な損害を與へた。」

と發表、北阿戰局に歴史的な段階が劃された。さき頃から傳へられてゐたチュニス、ビゼルト等からの撤收がこれによつて確認されたことは、われ／＼樞軸側にとつて決して好ましいことではなかつたが、この發表にもあるやうに、こゝ半年の間、敵大部隊をアフリカの一角にひきつけ人員と資材の上は大損害を與へ、さらにその間、歐洲防衛の體制を強化し得たことは、チュニジア作戦の大きな効果であつたことは明らかである。

北阿戰が展開されてゐる間に、獨伊側は互に緊密な連絡をとりつゝ、歐洲の要塞化を急ぎ、北方から西方イベリア半島に達する海岸は勿論、フランス、イタリアの海岸からコルシカ、サルジニア、シシリ、クレタ島などの地中海島嶼に對しても防備を固め、来るべき敵の第二戦線、歐洲本土上陸の野望に備へて來たのである。

敵側が何んと宣傳しようとも、獨伊側の紐帯は搖ぎなく、歐洲における獨伊樞軸の實力といふものは、地理的にみても、軍需生産力や資源の状態からみても、強固なものとなり、第一次歐洲大戰當時の如きものとはおよそ違ふ。即ち軍需資源についても、鋼鐵、アルミニウム、石炭、石油等は樞軸側で自給が出來、軍需生産力もドイツ國內の計畫的整備を行ふと共にフランス、ベルギー、オランダ等の生産力をも動員することに成功し、食糧資源もソクライナの穀倉に優に依存し得るのである。

獨ソ戦線においては、今冬はスターリングラードの戦闘によつてドイツの前進は阻まれ、ソ聯の軍需生産力の中樞を抑へることは出來なかつたが、ソ聯の抗戦力に與へた損害は大きい。

現在の獨ソ戦線は、だいたい昨年夏季攻勢開始頃のところまで整備され、各四百万以上の兵力が對峙してゐるのであるが、ドイツ軍は、新規動員の精銳をも加へ、来るべき戦局に備へてゐる。かつてドイツのゲッベルス宣傳相が、

「……エッセル塔の頂上はいつちもゆれてゐる。圓の周圍では圓の中心よりも動きが大きい。歐洲戰場といふ大きな圓の周圍で絶えず風波が立ち騒ぐのは當然である。北アの戰場も外郭の圓周上の一點に過ぎず、そこで起きた出來事は大きいやうに見えても圓の中心には響いて來ない。……」

と面白い比喩を以て北阿戰局を語つたことがあるが、その通り、歐洲における獨伊の大勢には大した影響はないのである。

それにも拘はらず、歐洲が北阿戰局の轉回によつて今にも崩れるかのやうに思はせようと、敵米英側はいま、謀略宣傳に大奮である。北阿撤收とみるや、アメリカ情報報局の如きは、

「歐洲第二戦線は近づいた、米英軍は歐洲大陸の四方八方から潮の如く上陸するであらう……」
などと氣勢を擧げたり、イタリアに宣傳攻勢を行つたりしてゐるが、彼等の狙ひは、獨伊樞軸國民に不安動搖を起させ、兩國の離間をはかつて樞軸の一角を崩さうとするにあると共に、この際、彼等が中立國を切り崩して自らの陣營に引き入れようといふ血眼になつてゐることは、嚴重に警戒せねばならない。すでにトルコ、スペインに對する米英側の宣傳、外交攻勢は相當の活氣を呈してゐる。この兩國がどうなるかは、歐洲の形勢上、重大な關心のあるところであるが、トルコについては五月十日、サラジヨグル首相が議會において、「トルコは中立を棄てて非交戰國の立場をとるだらう」と聲明したことは、何んとかして戦争介入を避けたいといふスペインの態度を、和平提唱といふ形で表明したものといへよう。我々としては敵米英側の工作と併せて、これら中立國の動きに注目すると共に、かゝる中立國が敵側の盲動に迷はされんことを希望せざるはなれぬ。

ともあれ、北阿戰局の歐洲に對する影響は、米英側の宣傳するほど深刻なものではないにせよ、五月十一日からワシントンで開かれてゐるルーズヴェルト、チャーチル第五回會談では、反樞軸側の今後の戦略がいろいろ協議されたことが推定されるのであるから、歐洲においては獨伊樞軸側のこれに處する萬全の準備を期待すると共に、我々自身も、來るべき事態に處する一段の決意を固めてかゝらねばならない。

主戰場をいま直ちに歐洲より太平洋に移動するかどうか、それにはカサブランカ會談などで、從來歐洲第一主義を主張して譲らなかつた英國の立場といふものもあるが、敵側が如何なる企圖に出でようとも、わが方の寧ろ望むところであることは勿論である。たゞ北阿戰局の推移によつて、米英側の兵力や軍需補給力に多少の餘裕が出來、それが太平洋方面に廻り得ることは、常識的にも考へられることであるから、この點、我々としては一層の覺悟が必要である。



折しも五月十二日、わが大本營發表にあるやうに、敵は有力部隊を以てアッツ島上陸を開始した。アッツ島當局は「アッツ島上陸こそ、米軍の太平洋反擊攻勢の序幕に過ぎず、わが大作戦は結局日本本土に迫るであらう」などと、例によつて誇大宣傳を飛ばして、世界の人々の氣を惹き、我々の心を脅かさうとしてゐるのである。

しかしながら敵が呼號するビルマ奪回作戦も、わが鐵壁の陣に阻まれたばかりでなく、却つて將兵七千を犠牲とするアラカンの悲劇に終り、さらに米英の援助を唯一の頼みとして、はかなき抗戦を續ける重慶政權も、北支第二十四集團軍長龐炳勳の國民政府への合體、或ひは太行山系、洞庭湖畔における徹底的敗戦によつて落日の陰影いよ濃く、更に南太平洋方面においても、ニューギニア、ソロモン、濠洲等がわが航空部隊の翼下に俯伏してゐる現狀である。

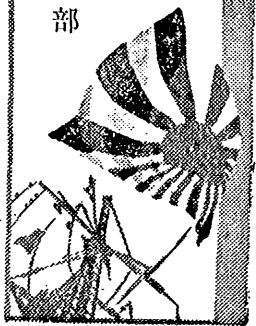
ビルマ奪回の出鼻を挫かれ、南太平洋の島から島へ攻め上らうとしてソロモン方面では、まられた敵は、今、日本本土空襲を呼號し、こゝに有力部隊を擁してアッツ島上陸作戦に出でたのである。

我々は敵のかゝる反攻企圖を徹底的に破推し、これを中途において思ひとまらせねばならない。敵が豪語する太平洋作戦は、我々にとつて、敵をたゞく勝利の機會が與へられることである。我々はあのアリューシャンの孤島に寡兵よく奮戦をつゞけてゐる第一戰將兵の勞苦を思ふにつけても、その感謝と必勝の念願とを、我々自身の戦争生活の中に生かさなければならぬ。時局が重大であればある程、奮起するのが我々日本人である。

この時突如、發表された山本聯合艦隊司令長官戦死の報は、一億國民を奮起させずには置かなかつた。「山本元帥の仇をとつて見せるぞ」と、今や全海軍と共に、全國民の血潮は沸き上り、熱火の如く米英撃滅の決意に燃えて立ち上つたのである。この元帥の壯烈崇高なる精神を今後生かすのは、ほかでもない、實に我々國民の一人々々である。「すべてを戦争へ、そして勝つために」我々は今こそ、持てる限りのすべてを捧げ盡し、この重大戦局に處することを誓はうではないか。

日本海海戦と大東亞戦争

大本營海軍報道部



明徴なる戦争目的

戦争目的の明否が國家總力の發揮上、基本的な性格をもつものであることは、古今東西の興亡史がひとしく實證するところで、現大東亞戦争において然るが如く、日露戦争においてもさうであつた。たゞ東亞制覇の野望に燃えて、無名の師を起したロシアが、遂に國內分裂の結果、國家總力を發揮し得ず、それは反對に我が國が、大詔の下、全國民一誠に歸し、たゞ敵撃滅の一點に國家の總力を結果發揮して、遂に曠古の大勝を博し得たことは

餘りにも有名な歴史的事實である。

今次大東亞戦争においても、敵米英の戦争目的は、一に世界制覇の野望にある。戦争目的が常に動搖し、これが今日なほ議論の對象となつてゐることは、その不明確さを如實に暴露してゐる證左であつて、彼等の企圖には獨善的な世界支配の野望以外に何ものもないのである。

これに反して我が戦争目的は、畏くも宣戰の大詔に昭示遊ばされた如く、皇基を恢弘し、大義を八紘に宣揚するための「自存自衛」であり、聖戰であることを、三十八年前の日露戦争が、獨

立自衛」の義戰であつたことと併せ考へて、わが三千年の努力が、常に肇國の理想を顯現するための、たゆみなき努力であることを再認しなければならぬのである。われ／＼の總力發揮の根柢は、全くこゝにあるのであり、それとともに我が戦争は、常に彼等の我に對する「輕侮」より發するものであることを、こゝにあらためて強く明識する必要がある。

翻るZ旗一旒

日本海海戦は、まことに皇國の興廢をこの一戦に賭けた一大決戦であつた。

Z旗、三笠の橋頭に懸る！

時まさに、明治三十八年五月二十七日午後一時五十分、敵が最後の新統戦力とたのむバルチック艦隊を、我が聯合艦隊は堂々朝鮮海峡に邀撃、これを一舉に撃滅して、世界海戦史上未曾有の快勝を博し、遂に日露戦争の大局を決定したのであつた。

當時ロシアが如何にこの東征艦隊に希望をかけてゐたかは、リボウ軍港を出發に當り、皇帝ニコライ二世が親しく三度も艦隊を訪問し、「ロシア海軍の名譽を擁護せよ」との勅語を下して全艦隊將兵を激勵した一事によつても明らかである。懸軍萬里、航程實に一万五千裡を、休む暇もなく、アフリカの南端喜望峯を大迂回しての來攻は、その決意になみ／＼ならぬものがあつたのである。

これに對して我が方もまた、我が聯合艦隊にして、萬が一にも不覺をとら

んか、東亞の海上権は敵手に落ち、わが沿岸は敵の封鎖するところとなるとともに、海外輸入は一切杜絶し、他方、わが滿洲軍は大陸に孤立化して作戦上一大蹶跌を來し、我が國の存立は極度に脅威される危局に直面したのであつた。

しかも、我が聯合艦隊は、東郷司令長官の勇斷と明察によつて、「敵前針路反轉」といふ大膽不敵な戦法により、開戦後、僅々三十分にして勝敗の數を決定してしまつたのであつた。

この大勝の結果、皇旗を翼成し、國威を中外に宣揚した先輩の偉勳が、我が國今日の隆昌を來した所以であることを回顧する時、大東亞戦争下、第二回目的の海軍記念日の意義いよ／＼重大なるを思ひ、今こそ敵米英を撃滅せねば止まぬ新たなる感激と、新たなる力の湧き出づるのを禁じ得ないのであ

制海權と肇國の理想

日露戦争と今次大東亞戦争とは、その規模の大小の點から、或ひはまた兵器の進歩、殊に飛行機、潜水艦、戰車等の出現の點からいつて、直ちにこれを比較することは出来ない。

當時のロシアは、その強大を世界に誇り、その陸軍力は、平時の總兵力二百万、戰時五百万を突破し、東洋にあるものみでも約二十万を整備してゐたのに對し、我が兵力は、後方を加へても動員總兵力百十万を出でず、更に軍の編制、裝備についても、我が國は彼の敵ではなかつた。

また海軍力においても、彼の五十一万餘トン（皇海艦隊と義海艦隊を除く）に對して、我れは總トン數二十六万餘トンと二對一の劣勢比率であり、さらに彼の太平洋艦隊が戦艦七、裝甲巡洋艦四、巡洋艦一〇、その他砲艦、驅逐艦を合せ

て十九万一千餘トンを保有する優勢に
比して、わが主力艦隊が旗艦三笠をは
じめ、朝日、敷島、初瀬、八島、富士、
春日、日進の各艦がみな外國製であ
り、日進、春日は開戦と同時にイタリ
アから至急買入れたものであつた。

しかも我は終始一貫、一隻の豫備兵
力を持たず、敵太平洋艦隊を撃滅する
や否や、再びバルチック艦隊といふ大
小艦船六十隻の新來の敵を迎へねばな
らなかつたのである。

一方、戦費を比較しても、彼の二十三
億五千万圓に對して、我は二十億圓で
その總額には餘り相違はないが、我が
國が公債發行高十三億圓を國內で消化
できず、そのため八億圓の外債を各國
に仰がねばならず、しかも我が國が連
戦連勝しながらも、國際市場における
我が國債の相場が、常にロシアのもの
より安値であつたことは、彼の財力の
優位を雄辯に物語るものであつた。

この歴史的優勢を敵に對して、我が國
は歴史的な大勝を博したのであるが、
その戦場の廣狹、戦争様式の複雑さ
は、今次大東亞戦争とは到底同日の論
ではない。しかしながら、その基底に
横たはる歴然たる共通的事實のあるこ
とを看過してはならない。即ち制海權
の問題である。

大東亞戦争の緒戦における我が制海
權の確保が、爾後の作戦を有利に展開
し、今日みるやうな赫々たる戦果を収
めた如く、日露戦争においても、その
緒戦で制海權を我が手に收めたのであ
つた。もしこの制海權の確保がなかつた
ならば、我が第一軍も第二軍も、とも
に易々と大陸に上陸、進出すること
が出来ず、國軍の作戦方針であつた海
陸並進の戰術指導に重大な支障を來
したことであらう。

由來、制海權の確保が、國家の興隆
昌榮と不可分の關係にあることは、神

功皇后三韓御遠征以來の我が國史のみ
ならず、廣く世界史の明證するところ
で、アメリカが今や大西、太平洋兩洋艦
隊の完成のみを以て満足せず、さらに
七洋艦隊の建設を計畫してゐる所以の
ものも、全く世界制覇の野望を達成せ
んがための制海權の確保にある。

太平洋における現戦局は、航空撃滅
戰の深刻なる様相を露呈してゐるが、
制空權のみを以て制海權を獲得したこ
とにはならない。航空機が近代海戦に
おいて主兵力的地位を獲得したことは
事實であるが、それは海上兵力の無用
化といふことと同義語ではない。即ち
海上兵力なくしては、眞の制海權を獲
得し得るものではなく、航空機を含め
た海上兵力、換言すれば、制空權下に
おける艦隊決戦によつて、はじめて制
海權を獲得し得るのであつて、アメリ
カの七洋艦隊建設は、如實にこれを示
すものである。

我が八紘爲宇の皇道が、斷じて許容
し得ない西歐の霸道に出發するこの制
海權の確保に對しては、斷乎として鐵
槌を下し、これを撃滅しなければなら
ぬのである。その反對に、「萬邦をして
各、其の所を得しめ、兆民をして悉く
其の堵に安んぜしむる」我が聖國の理
想實現のためには、制海權を獲得して
は絶対に達成し得ぬことを、この際と
くに銘記し、海への關心を一段と振作
せねばならぬ。

曠古の大勝の主因

日本海海戦はどうして勝つたか！
これについては、東郷元帥の日本海
海戦に関する戰闘詳報の一節が最も端
的に言ひつくしてゐる。

「我が聯合艦隊が能く勝を制して前
記の如き奇績を收め得たるものは一
に

天皇陛下御稜威の致す所にして、

固より人爲の能くすべきにあらず、
全く御稜威によるものであつて、こ
の御稜威の下、皇國の興隆を双肩に擔
つた全海軍將士の烈々たる攻撃精神
と、勝たずんば止まざる全國民の必勝の
信念とが、敵撃滅の一點に結果し、發
揮されたからである。勿論、このほ
か、我が艦船兵器の優越、日夜を分た
ぬ猛訓練、兵術の妙用が與つて力が
あつたことはいふまでもない。

この海戦を契機として、我が艦船が
從來の外國製の羈絆を脱して、今日み
る如き世界獨特の造艦技術による國産
海軍に全面的に態様を一新したこと
は、周知の通りであるが、こゝに注目
すべきことは、我が海軍の猛訓練と兵
術の妙用とである。

戦争が開始されると共に、戦闘のみ
が行はれて訓練などはないやうに思は
れ易いが、我が國軍の教育方針は、「教
へ且つ戦ひ、戦ひ且つ教へる」ことに

あるのであつて、現に我が第一線將兵
は、戦闘の餘暇には日夜を分たぬ猛訓
練を續行してゐるのである。

これは今には、じまつたことではな
く、東郷元帥は旅順艦隊の撃滅後、艦
船兵器の修理のため一旦内地に歸還し
た麾下聯合艦隊に對し、修理完了とと
もに、バルチック艦隊の來航まで、鎮
海灣において眞に千磨必死の猛訓練を
實施されたのであつた。

特に艦砲射撃の精練に熱中されて、一
僅か十日間の射撃弾數が平時の一ヶ年
分を優に超過したといふ一事を以てし
ても、はげしさが想像されるであらう。
「訓練は實戦の如く」、現在第一線に活
躍する勇士が、「實戦の方が楽だ」と漏
らしてゐるやうに、我が猛訓練の傳統
は、幾多の先輩によつて不斷に培はれ
てゐることを知らなければならぬ。

また日本海海戦における彼の「取舵
一杯」の丁字戦法が、我が中古水軍の獨

自の戦法であつたことを忘れてはならない。正奇兩道の妙用——現大東亞戦争における雄渾無比なる作戦も、すべて我が固有の兵衛思想に發現するものであつて、われ／＼はこゝに一貫して流れる我が作戦指導の日本的性格の存在を見るのである。

世界戦局の展望

今や戦局の現段階は、まことに血戦死闘の連続であり、世界全戦局を通じて決戦様相を如實に示すに至つた。我が當面の太平洋戦局は、太平洋のはてしなき空面を徹つて、間断なき航空撃滅戦が展開され、現に敵は、北方アリューシャン方面より熾烈な反攻に出で、東はハワイ、ミッドウェー、南はソロモン、ニューギニア方面、西はピルマ、支那本土と、はゆる對日第二包圍陣を次第に壓縮して、我が本土の心臓部に向つて決定打を打ち込まう

とする容易ならざる實状である。

一方、歐洲方面においても、樞軸軍のチュニジア撤退を轉機とし、今やドイツを軸心として一大要塞化した歐洲大陸に向つて、反樞軸軍は決定的な攻勢に出でようとしてゐるのである。

これに對して既に戦備を完了した樞軸軍が、いつ何處に一大攻勢作戦を展開するか、形成は全く豫斷を許さない緊迫した情勢である。敵米英は、チュニジアにおける樞軸軍の戦闘停止と共に、大統領ルーズヴェルトと首相チャーチルとを中心とし、世界各戦場の司令官と會同して第五次米英主腦者會談をワシントンで開始したのである。

最近の外電は、米英既定の世界戦略たる「歐洲第二、倒獨先決主義」の「太平洋第一、倒日先決主義」への訂正であり、或ひは世界戦略の根本的變改はない等々、と傳へてゐるが、その結論の如何を問はず、現に元米海軍作戦部

長ブラットが

「太平洋、大西洋及びインド洋において最後の決を與へるものは海軍であり、米國の主戰場は太平洋に在り」と豪語したやうに、アメリカの攻撃重點が太平洋に在り、且つ打倒日本に在ることは、火をみるより明らかである。チャーチルが揚言したやうに「われ／＼は、やがて反樞軸軍が日本を支那大陸から驅逐し、その武勇をたゞへる日を迎へるであらう」との一語を肝に銘じなければならぬのである。

正に戦局は決戦に突入しつゝあるのであり、戦争の苛烈さは、勝ち残つて榮えるか、敗れて亡びるかの一つの道しかない深刻そのものの様相となつたのである。

アメリカの決戦企圖

米國も今や必死である。その總力戦

態勢も、輿論動向も、緒戦當時の如きものではなく、その豊富な資源と強大な生産力とに基づく物的優越によつて、究極の必勝を確信し、軍備の増強によつて民心は次第に必勝の信念を固め、士氣漸く昂揚しつゝあるのがその實相である。

現在、アメリカの軍備状況がどうなつてゐるかにつては、海軍長官ノックスと陸軍長官スチムソンの言を引例することが捷徑であらう。即ち、

「米國は豫定よりも二ヶ年早く、一九四五年に七洋艦隊を作戦に運用することが出来るであらう。すべての建艦計畫は、もと／＼一九四五年に完成する豫定であり、一九四四年七月までに海軍兵力は二百二十五万に達せしめる計畫である。

また陸軍は一九四三年末までに航空兵力三百四十五万、女子補助部隊十五万を含む總兵力八百二十万、百ヶ

師を建設せんとしてゐる。」

のであり、海軍においては、空母と潜水艦に重點を注いで建造を急ぎ、一九四五年末までには合計八百七隻三百三十九万トンの既定計畫を完成する一方、陸海ともに航空兵力の飛躍的増強に拍車をかけつゝある實情にある。

他方、兵力配備をみても、アメリカ海軍の大部を依然として太平洋に配置して帝國海軍に對抗せしめ、將來、新鋭艦の完成とともに、ます／＼太平洋艦隊を増勢して積極的な進攻作戦に轉じ、同時に我が本土ならびに東亞全水域に現在よりも多數の潜水艦を派遣して、我が海上交通線の破壊を企圖してゐるものと解されるのである。

國民の覺悟

今や帝國海軍は、光輝ある傳統の下、敵の來らざるを待たず、常に實力の満を持し、全將兵の士氣ます／＼

旺盛にして、敵撃滅の決意いよ／＼固く、誓つて必勝を確信してゐるのである。

特に陸軍部隊と密接に協同して隨所にその精華を發揮するとともに、盟邦との共同作戦に關しても水も漏らさぬ連繫を保持して、共同の敵に對する共同の勝利を確信し、世界全水域に亘つて積極果敢な作戦を展開してゐる。

乙旗は今、大日本帝國の橋頭高く翻として翻つてゐる。先づ勝て！

現在、一億國民の目標は、これ以外にはないのだ。今や艦船、兵器、彈藥、資材、食糧等、中でも特に飛行機と人員に對する第一線からの要求は、目一口と激増してゐる。われ／＼は今こそ戦局現實の事態を正視し、その要求するところの何物たるかを認識し、眞に前線後一體化の實を挙げなければならぬ。

山本司令官を悼む

千古不滅の武勳

決戦下第二回目の海軍記念日を目前にして二十一日の大木營発表は、聯合艦隊司令官山本五十六大將の戦死を傳へた。即ち、

大木營発表(五月二十一日十五時)

聯合艦隊司令官海軍大將山本五十六、本年四月前線ニ於テ、全般作戦指導中、敵ト交戦、飛行機上ニテ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲタリ

後任ニハ海軍大將古賀峰一親補セラレ、既ニ聯合艦隊ノ指揮ヲ執リツ、アリ

大東亞戦争開戦以來、われ等の聯合艦隊司令官として全國民に親交され、その颯爽たる英姿が常にわれ等の心奥に生きてゐた山本大將戦死の報は、まことに痛恨極まりないものであるが、大木營発表にある如く、既に古賀大將が聯合艦隊の指揮を執り、これによつて帝國海軍は微動だにすることなく、全將兵の士氣ますます旺盛にして、敵撃滅の一途に邁進しつゝあることは心強い限りである。

大將は今大戦争において、太平洋、インド洋の全域に亘つて雄渾無比なる大海上作戦を指導された人であり、帝國の必勝不敗態勢の基礎を確立された殊勳者であつて、海戦

史上に不滅の武勳を樹てられたばかりでなく、青史に永く英名を残されることであらう。

畏くも 天皇陛下におかせられては、大將多年の偉功を嘉せられ、

大勳位功一級ニ叙セラレ

元帥府ニ列セラレ、特ニ元帥ノ稱號ヲ賜ヒ

正三位ニ叙セラレ

故元帥海軍大將山本五十六ニ特ニ國葬ヲ賜フ

旨、有難き御沙汰を賜はつたのである。山本元帥の光榮はもとよりであるが、皇室の御殊遇に對し奉り、全國民は唯、恐懼感激するのみである。

元帥は開戦當時、麾下聯合艦隊の各指揮官を集められ、開戦に關する訓示をされたが、その中に

「本職ト生死ヲ共ニセヨ」

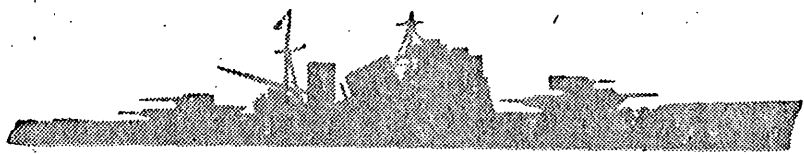
と、嚴の如き敵撃滅の決意と、烈々たる敢闘精神とを吐露されたのであるが、この訓示は全將兵の中に脈々として流れ、今や全海軍の士氣は冲天の如き軒昂たるものである。

今や國內外情勢は日とともに深刻苛烈さを加へ、決戦へと突入しつゝあるのである。全國民は元帥の英魂を嚴かにとむらふとともに、身を以て敵撃滅の尊き礎石となられた元帥の壯烈なる海軍精神を想起し、その精神を精神として米英撃滅に挺身せねばならぬのである。

大木營海軍報道部

東郷元帥の遺訓と總力戦

大本營海軍報道部



撃滅精神

東郷元帥は、日露戦争の全期間を通じて名譽秋山眞之中佐の執筆した報告を、ついで加筆訂正されたこととなつたといふことであるが、只一回あつた。それはかの有名な日本海海戦の第一報である。

「敵艦見ゆとの警報に接し、聯合艦隊は直ちに出動、之を撃滅せんとす。本日天気晴明なれども波高し」

の大木營電文が、原案には「遊撃せんとす」とあつたのを筆をとるや否や、直ちに「撃滅せんとす」と訂正されたのである。

これを元帥が高山神海戦後、作戦上の打合せのため東上され、正に本國を出發して威風堂々と東航の途にある敵バルチック艦隊を遊撃すべく、明治三十八年二月初旬、帝都を辭する時、畏くも明治天皇から御下問を賜はつた際

「新來の敵に對しては誓つて

之を撃滅し、寇孽を安んじ奉ります」

と二度まで繰返して奉答し、侍立した時の海相山本權兵衛大將を驚かしたといふ事實と併せ考へる時、われは烈々たる元帥の撃滅精神に強く打たれるのである。誰かよくかやうに毅然たる必勝の信念を以て奉答し得るものがあらうか！

これは一に世界に冠絶する我が國體に對する透徹、明徹なる元帥の信仰に發源するものであつて、正に我が神武の極致を體現したものだといはなければならぬ。

この敵を撃滅せんとすは止まざる火の如き剛魂こそ、決戦に臨む一億國民の正に堅持せねばならぬところである。

七分三分の叶合

「敵艦における士氣の消長は、戦果に關係すること頗る大なり。戦場の經歷少きものは、大抵敵を強く見、我を弱く感ずるを常とす。」

これ敵艦内の修繕等は、我これを見る能はざるも、我の被害は常に心に觸るゝを以てなり。血路を開きて逃走せんとする敵艦を見て、我に迫撃し來るものと誤り、あるひは敵が困難の極、たゞ砲撃を亂射するを見て、我を猛射するものと誤る等の實例なきにあらず。

特に戦艦にして勝敗まことに決せんとする際には、實際勝戦なるに、自ら苦戦と感ずること多し。故に我苦戦するときは、敵はその數倍も苦しめるものと觀念するを可とす。古の兵家これを七分三分の叶合と戒む。即ち敵七分、我三分と思ふ時が、實際五分五分なりとの謂なり」

これは日露戦争の最中、一旦内地に歸還した我が聯合艦隊が修理完了とともに鎮海灣で猛訓練を實施し、いよく、バルチック艦隊の來着も間もないであらうと、明治三十八年四月十七日、東郷司令官が、戦艦實

施について陛下に下された訓示の一節である。

戦争は苦しい。決して樂戦で
はあり得ない。こちらが苦しい
時には敵も苦しいので、これは
すべて相対的である。この苦戦
の連続に對して、最後の五分間
を戦ひ抜いたものに對しての
み、勝利の榮冠は授けられる
のである。これこそ實戦の體驗
を経て得られた千古不滅の眞理
であつて、今こそわれわれは、
この理法を肌の中へ叩き込まな
ければならぬ。

元帥はこのほか更に、
一、作戦の萬事萬成を最要と
す。油断は大敵なり。寸時細
事にも警戒を怠るべからず。
一、已に合戦するに當りては、
また防禦をいふの要なし。積
極の攻撃は最良の防禦なり。
一、戰術實施の要訣は、己の欲
せざるところを敵に施すと同
時に敵より施されざるにあ
り。故に斯くされては苦しむ
と思ふことを、我より先
づ施すこと肝要にして、常に

機先を制せざるべからず。
と諭されてゐるが、卓軍に退却
なきが如く、われ々國民に
とつても退却は絶対にない。
自主積極、たゞ攻撃前進の一
途あるのみである。

戦はずして既に勝つ

國を擧げての一大軍國であ
り、國民皆兵である國家總力戰
の今日、明治三十八年十二月二
十一日の聯合艦隊解散式におけ
る東郷司令長官の訓示は、ひと
り軍人に對するのみならず、實
に國民の大文字であり、正に全
國民の必讀録すべき教訓とい
はなければならぬ。

「武力なるものは、艦船兵
器等のみにあらずして、これ
を運用する無形の實力に在
り。百發百中の一砲、能く百
發一中の砲術に對抗し得
るを覺らば、我等軍人は主
して武力を形而上に求めざる
べからず。
若し夫れ、常に、聖諭を奉
讀して汝々奮勵し、實力の涵

を以て放つべき時節を待た
ば、庶幾くは以て永遠に護
國の大任を完することを得
ん。神明はたゞ平素の鍛練に
力め、戦はずして既に勝てる
者に勝利の榮冠を授けると同
時に、一勝に満足して治平に
安んずる者より直に之を擯
ふ。古人曰く、勝つて兎の緒
を締めよ」と

至誠

「是れ亦長期の一大演習に
して、之に參加し幾多啓發す
るを得たる武人の幸福比する
に物無し。崇之を征戰の勞苦
とするに足らんや」
この元帥の不屈の魂と、綿々
たる餘裕とは、とつて以て今日
のわれわれの戦ひ抜く姿でなけ
ればならぬ。

元帥の八十八年の生涯は、
唯、至誠の一語につきるといふ
ことが出来る。幸く元帥は、至
誠に對し奉り、絕對隨順の至誠
に生き抜かれた人である。杉浦
重剛氏は東宮御學問所總裁とし
ての元帥を、
「あの地位、あの功績で、
加之總裁でありながら殿
下に對し奉り、鞠躬如たる態
度のみか、七年の最終の時ま
で、何時も聲が顫へてゐた。
一度あの容子を見聞したら、
誰でもその誠意に打たれない
ものはないであらう。」
と稱讃されたが、蓋し元帥の
如きは至誠神に通じ、神人一如
の境地をいかれたものであら
う。
宜なる哉、元帥座右の銘が、
「天與正義、神感至誠」
であつたことを――
誠心を他の腹中におき、生死
利害を超越して、全體のために
己を投ずるの覚悟こそ、まことに
戦勝の要訣といはなければなら
ない。

14



農繁期の 國民皆働運動

大東亞戦争を勝ち抜くために、食糧を國內で自給することは、絶對に必要です。私どもは、何が何でも立派に大増産をやり遂げねばなりません。

いま農繁期の最中にある農村では、全力を擧げて増産に邁進してゐますが、これは、ひとり農村だけに任せて置くべきことではなく、私ども國民が一人残らず力を協せて、眞剣になつてかゝらなければ、これをやり遂げることは困難です。

そこでこの大増産を見事にやり遂げようと、大政翼賛會では、まづ春の農繁期を戦ひ抜くために、農繁期國民皆働運動を全国的に展開してをりますが、この精神とやり方を十分に會得して、決戦下、増産の完遂をめざし、一億打揃つて農村に協力しようではありませんか。

國民皆働で勝ち抜かう

國民皆働といふのは、先づ第一に、かなことですが、さらに、この大戦争を決戦下に一人の遊んでゐる者もなく、勝ち抜くために必要な物資を確保

し、すべての事業をやり遂げること
は、單にその物の生産に直接働いて
ゐる人々、その事業に直接たづさはつ
てゐる人々だけのつとめではなくて、
國民全體のつとめであること、國民全
體がそのために力を協せてやつてゆく
といふ意味が含まれてゐます。
つまり、私ども個々についていへ

六月の常會徹底事項

- 一、國民皆働で見事に食糧の増産をやり遂げませう
- 二、みんなて二百七十億貯蓄を完遂させませう
- 三、防空必勝の陣を固めませう

ば、自分は或る職業について、一生懸命に働いておればよいといふだけでは、命に働いておればよいといふだけでは、なくては、その他の職域のこと自分自身近かなものとして考へ、必要に應じてどの部面へでも、どしどしと自分の力を出して援けてゆくことが大切なことです。

この協力のはじめは、先づその職域で日夜眞黒になつて生産に邁進し、食糧を忘れて事業の遂行に努力してゐる人々に感謝し、慰安し、激励することです。次ぎには、その人達が安心して力一ぱいの働きが出来来るやうに、その職域以外の生活をいろいろと手助けし、面倒をみることであります。そして結局は、直接はその仕事の手傳ひをし、その仕事を分擔して、一緒に働くといふところまで進んでゆかねばなりません。

いはゞ、これは戦後の總がより戦法です。この戦法は、職域と職域、地域

と地域とが互に感謝で暮らひ、協同で助け合ふところに輝かしい戦果が擧ります。またこの戦法は、或る部門でこれだけの仕事をどうしてもやらなければならぬが、これだけの人手が不足だといふ場合に、差當り、やりくりのつく部門から援兵を送り出して、戦時下の詰つてゐる勤勞力に融通性を持たせるといふ大きな効果があります。

時は食糧増産の決戦期

今は春の農繁期で、この時期をうまくやり抜くかどうか、食糧増産の第一の關門です。いはゞ、今は食糧増産の一つの決戦期なのです。この決戦期を勝ち抜くために、農村の人々は固い決意をもつて、懸命の努力を續けています。

實際、農村の人々の勞苦は、並たいていのもではありません。前線へは勇敢な將兵を送り、重要産業方面

へは、これから一人前の働き手にならうといふ青少年を産業戦士として送りだし、老人や女子供も總動員して、後に残つた僅かの人手で、この決戦下の食糧自給を確保しようとして、技術の上からも、勞力の上からも、血の出るやうな努力を續けておきます。

しかも戦時下の國民食糧の配給を圓滑にするためには、自分の食糧として残して置く保有米さへも供出して、食糧を作る身が、食糧の不自由さへも忍んで、勞力や資材、肥料の不足と戦ひながら、増産に邁進してゐるのです。では、この農村の人々の尊い勞苦に對して、都會からは何を以て酬むべきでせうか。

この農村の働きに對する感謝のためにも、また食糧増産を身近かの問題とし、國民皆働の精神からこれを自分のつとめとして協力するためにも、私どもはあらゆる方法で農村に援兵を送

り、力を協せてこの農繁期を乗り切つてゆきたいものです。

「國民皆働運動」の實行團體

「農繁期國民皆働運動」は、先にも述べましたやうに、決戦下における食糧國內自給の大切なことと、現下の農村の事情から、目前の農繁期を勝ち抜くために國民皆働の運動を起し、農村に對する都市の感謝の心を表すと共に、食糧増産をやり遂げようといふので、大政翼賛會、大日本翼賛壯年團、大日本産業報國會、商業報國會、農業報國聯盟、大日本青少年團、大日本婦人會が實行團體となり、情報局、内務省、陸軍省、海軍省、文部省、農林省、鐵道省、厚生省の後援の下に實施するので、その目標は、

- (一) 今年の米の作付段別を前年以上に必ず増加すること
(二) そのために、全國にある未だ耕

してない土地や遊んでゐる土地を漏れなく耕作地にしてしまふことにあります。

「國民皆働運動」の機關

一、大政翼賛會の各道府縣支部と、六大都市支部、郡市町村の支部に「農繁期國民皆働本部」といふものを臨時に設け、これには前に述べた七つの實行團體が全部参加してゐます。

二、また、「食糧増産本部」(この名前でない所もあります)といふのが、道府縣の關係官吏と農業團體その他で組織されてゐて、これには農村の翼賛會支部、翼賛壯年團、農業報國聯盟、青少年團、婦人會が力を協せて、その仕事を進めてゆきます。

三、そして食糧増産本部は、食糧増産のために、どこではどれだけの人手が要るかといふことを調べて、農繁期國民皆働本部に知らせます。この知らせを受

けた農繁期國民皆働本部では、直ちにそれだけの人数を擧げて、その必要な所へ援兵として勤勞派遣する幹旋をつとめることになつてゐます。そのためには、農繁期國民皆働本部と食糧増産本部とは緊密に連絡しなければなりませんから、必要な場合には、農繁期國民皆働本部は食糧増産本部と一つになつてゐることもあります。

勤勞奉仕隊の動員

と個人の勤勞奉仕

食糧増産本部で、どの村でどれだけの人数が必要といふことが分りましたと、農繁期國民皆働本部に参加してゐる實行團體では、その團體員の中から必要な人数を集めて勤勞奉仕隊を作り、これをその村へ派遣して、勤勞奉仕をするわけです。

また、右のやうに實行團體が勤勞奉仕隊を派遣するほかに、農村出身者で

都市へ出て商業に従事してゐる方は勿論のこと、工場、鑛山、事業場、事務所等に働いてゐる方も、仕事に差支へない程度で、一時農村に歸つて、農村の親許とか、親戚、知合などの所で農耕の作業に従事するやうに、それ／＼關係のある實行團體から適當な措置をとることになつてゐます。

この運動は、農村に對する感謝の眞心を表すために、少しでも餘計に農村の役に立ちたいといふ精神から出てゐるのですから、勤勞奉仕隊は、農家から何んの費用も、報酬も、もてなしも受けません。この運動は全額、實行團體が手銭、手辨當で實施するのであつて、農家に對しては一錢の負擔もかけないのを主旨としてゐます。

勤勞奉仕の時期と期間
本運動の時期や期間は、各地の農業事情によつて多少違ひますから、各地方毎に所要の時期と期間を定めて實施することになつてゐます。

勤勞奉仕隊には運賃割引

本運動のために農村に派遣される勤勞奉仕隊の輸送については、鐵道省では特に特典を與へ、三十人以上の團體には團體割引の取扱をすることになつてゐます。この特典を利用するに

どんな作業をするか

作業は田植、麥刈、養蠶等の關聯作業、共同炊事、共同託兒等を主とし、さらに、農家の家政補助等の簡易な仕事もして貰ひます。

つまり農家の人々には、熱練を要す

は、道府縣翼賛會支部長の證明が要ります。なほ、個人として一時歸農する場合には別に特典はありません。

農家への希望

農家で手助けが欲しいときには、自分の市町村にある食糧増産本部や食糧増産指導部などに速電なく申込んで下さい。食糧増産本部からは、農繁期國民皆勤本部に連絡して、それ／＼の實行團體から、所要の手助けの人数を動員するやうに斡旋いたします。

なほ、この手助けの動員は、前にも申しましたやうに、農家への感謝のために行ふのですから、農家では手助けに來た奉仕隊員に對して、費用の辨償だとか、謝禮だとか、もてなしなどは一切心配をなさぬやうに願ひます。さういふことを農家に心配かけるのは、この運動の趣旨に反することになりま

すから、農家ではこの勤勞奉仕を農

進んで農村の勤勞奉仕に

都市へ出て商業に従事してゐる方はじめ工場、鑛山、事業場、事務所、商店などに働いてゐる農村出身者は、男も女も、職場の都合がつかまじたら、この際、出来るだけ一時農村へ歸り、食糧増産の手助けに協力して下さい。

農繁期の手助けのために都市の工場などから青少年が歸りますと、折角久しぶりで歸つたのだから、ゆつくり遊んでゆけといふので、家の人も仕事の手傳ひなどをさせずにおくために、歸つても何んにもならなかつたといふやうなことを、以前はよく聞きました。が、決戦下の食糧事情をよく認識して、自分でどし／＼増産に協力するやうに、決意を固くして歸つて欲しいものです。また自分個人としてでなくとも、團

體の動員にも進んで参加して、農村へ勤勞奉仕にゆくやうに心掛けて下さい。なほ農業に全然経験のない都會育ちの人々も、この際どし／＼勤勞奉仕に参加して下さい。農村では多くの人手の助力を求めています。また勤勞奉仕の作業の範圍も非常に廣いのですから、全然農村を知らない方でも、作業の種類によつては十分に農家の手助けを果すことが出来ます。

農村への勤勞奉仕隊は、實行團體のほか、官公署、學校、その他の團體、銀行や會社等からもどし／＼出掛けませう。これらの團體で勤勞奉仕をする場合には、市町村の翼賛會支部に設けられてゐる農繁期國民皆勤本部に相談して下さい。團體で奉仕に出かける場合には、前に述べたやうに鐵道運賃の特別割引がありますから、萬事は農繁期國民皆勤本部と打合せて下さい。

(大政翼賛會)



固めよう 防空必勝の陣

「敵機空襲のあることは必至である。従つてわれは、何時でも来るといふ準備を完全にし、萬全の策をとつて置くことが極めて必要である。」

敵の日本空襲の準備は、日を経るに従つてますます強化され、より大きな飛行機と、より改善された爆弾を使用することであらう。

軍防空がしつかりしてをれば、いつ何時、敵機が来ても大丈夫ではないかといふ者もある。しかし、軍防空が敵機をどれだけ撃つるかは言明の限りでないが、イギリスがドイツを空襲する場合に、どれだけ損耗を見込んでゐるかといふと、約一割である。

従つて、この率でゆくと、例へば敵の五十機が日本を空襲した場合、一割の五機は撃墜されても、残りの四十五機は皆、爆弾を落してゆくことになる。

これに對して民防は、大切な人命を保護する重要な施設を保護しなければならぬ。これについては、日本でもいろいろと研究されてゐるが、今は議論の時はなく、議論する暇に實行することと前ビルマ方面陸軍最高指揮官飯田中将は、空襲下のビルマの體驗を基に民防の萬全を期すやう強調されました。



完遂しよう 二百七十億貯蓄

今年の貯蓄目標額である二百七十億といふ数字がどんなに大きなものであるか、またこの目標額を達成するには、私どもはどんな覚悟で當らねばならないか等については、週報五月五日號でも詳しく説明しましたが、この二百七十億貯蓄達成への總進軍は、六月の上半期實現期を控へていよいよ本格となつて参りました。

私どもは、新たな決意を以て新しい目標額の達成に突進するのみです。沸々として燃え上るあの撃ちて止まむの逞しい氣魄は、單に前線ばかりでなく、銃後においてもまた限りなく盛り上げるべきです。そして貯蓄こそは、この氣魄が現實のものとして形作られる愛國の結晶なのです。

敵米英の反撃意圖は、いよいよ本腰になつて参りました。相手にとつて不足はありません。さあ、力を協せ、心を一つにし、昨年の意氣でもつて突進し、攻略し進ませよう。目標は二百七十億です。

貯蓄は國民の義務
蓄總進軍特別計畫を樹て、来る六月十五日から七月十四日までの一ヶ月間を特に貯蓄強調期間とし、この期間中に、まづ本年度目標額の三分の一に當

對の信頼を持つてゐることは勿論であります。また同時に、私どもにも與へられた責務である民防に對しては、萬全を期して當らなければなりません。まことに「議論より實行」の時です。その實行の具體策については、「防空必勝」の改訂が行はれますので、近く週報でこれを特輯し、詳しく説明する豫定ですから、それをお手本にして民防の完壁を期して下さい。

寫真週報 五月二十六日號

- 海軍記念日特輯
- 敵艦隊撃滅に向ふ我が空の水上戦隊
- 敵母の空母を呼號せば、我れ二百を以て應へん
- 空の戰場へ馳せ参じよう
- 土浦海軍航空隊
- 海軍航空隊
- 海軍の若鷲となるには
- 陸軍の海軍陸戦隊 (本軍演習隊にて)
- 陸軍の陸にこの苦勞—前線基地
- 海軍航海學校の楽しい訓練
- 日本隨一の海軍村 (山梨縣)
- 海軍特別志願兵制度實施に本島人の喜び
- 漫遊海鷲の兄さん—その他

る九十億貯蓄だけではどうしてもやりとげようと、皆さんの奮起と努力を願ふことになりました。私どもは、今こそ、「貯蓄は國民の義務である」といふ考へに徹し、一億國民一人残らずが、各自の負擔力に應じて、力一ぱいの貯蓄をしたいものです。

六月の常會徹底事項の中には、
イ、一層戦争生活に徹し、「間に合せ」で生活の無駄を省き、副業や内職などで貯蓄源の産み出しに努めること
ロ、賞與や臨時収入や種々の増加収入は、なるべく全額を國債や債券の購入その他の貯蓄に振り向けること
ハ、部落會や町内會や隣組では、この際各戸の貯蓄に余力のある者には貯蓄の増額をすすめること

といふことがうたつてありますが、これらのことは工夫と努力で、いくらでも實效が擧ることです。



昭和十八年度上期の
賞與國債支給率

賞與額	扶養家族のあるもの	扶養家族のないもの
百圓以下	三割五分以上	三割以上
二百圓	三割五分	三割五分
五百圓	四割	四割
千圓	四割五分	四割五分
千圓以上	五割	五割

右の標準は最低基準を示したもので、各人の身邊上のいろいろの事情を考慮して、適宜な増減割合を加へることになつてゐます。

賞與方法としては、各府が率先實行し、その管下の各地方團體關係社や團體等を通じて、その徹底を図り、全国的には道府縣が中心となつてこれを推進し、實效を擧げるやも努めるもので、官公費、事務所、營業所、工場、事業場等の積極的な協力が望まれ、殊に今回の賞與國債支給に當つては、「國債貯金制度」の普及を期すことによつて消化することが望まれてゐます。

たしかに、私どもの周囲にはまだまだ貯蓄を産み出す餘裕のある人達が澤山をります。このやうな人達は、今こそ貯蓄は犠牲にあらざりて奉公なりといふ觀念に徹し、欣んで貯蓄し、北に南に、海に陸に、生命を捧げて戦つてゐる兵隊さんの勞苦に酬いねばなりません。農村の方なども、お米の値段が改訂されたりしたため、懐ろが少しでもあつた、かくなるやうなことがあつたら、早速貯蓄に廻して下さい。

また、お勤めの方も、賞與を買つたら、少くとも別表の國債支給率ぐらゐの國債は、是非とも引受けるやうにしなければう。

かうして、國民の創意と工夫と努力によつて、その負擔が公平になり、一人の落伍者もなく、整然とした、しかも退しい進軍が續けられるとき、二百七十億の龐大な貯蓄も容易に達成されるのです。

昭和十四年度以降道府縣貯蓄目標達成状況調

區分	昭和十四年度	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年度
北海道	○	○	○	○	○
青森	○	○	○	○	○
岩手	○	○	○	○	○
宮城	○	○	○	○	○
秋田	○	○	○	○	○
山形	○	○	○	○	○
福島	○	○	○	○	○
茨城	○	○	○	○	○
栃木	○	○	○	○	○
群馬	○	○	○	○	○
埼玉	○	○	○	○	○
千葉	○	○	○	○	○
東京	○	○	○	○	○
神奈川	○	○	○	○	○
新潟	○	○	○	○	○
富山	○	○	○	○	○
石川	○	○	○	○	○
福井	○	○	○	○	○
山梨	○	○	○	○	○
長野	○	○	○	○	○
岐阜	○	○	○	○	○
静岡	○	○	○	○	○
愛知	○	○	○	○	○

新たに登場する國債貯金

今後の貯蓄進軍に、六月中旬から新たに「國債貯金」が登場する豫定です。これは今回改正された臨時資金調整法に基づき新種の貯蓄で、一口にいはば、「通帳で國債を買ふ」とも、「國債の保管証が通帳式になつてゐる」ともいへるものです。

この取扱機關は銀行、市街地信用組合および産業組合です(郵便局での取扱は少し遅れます)。その利息は國債の利廻り(分類所得税を引いたもの)と略同じで、分類所得税も総合所得税も返税され、また何時でも拂出すことが出来ます。拂出すときには、現金の代りに従來と同じ國債證券が戻つてくることになつてゐます。

この貯金は一圓以上ならば隨意の金額を預けることが出来るので、國債の場合よりも一層便利です。最高限度は七千圓までですが、拂出せばまた續けられます。なほこの貯金で集つたお金は、金融機關で全部國債に運用されますから、政府の方からみても國債と同じことになります。このやうに國債貯金は、名實ともに國債證券の購入と同じやうに仕組まれてゐるので、「國債貯金」と名づけられたのです。

この貯金は、差當り國債の隣保消化や、賞與で國債を買ふときに利用されるもので、この制度の利用はお互に大層便利な上、しかも直接に戦費を負擔できるといふ點から、十分國の期待に副ひ得るものです。

(大藏省)

全	三	滋	京	大	兵	奈	和	島	島	岡	山	徳	香	愛	高	福	佐	長	熊	大	宮	鹿	沖	全	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(備考) ○印は月別目標額を、×印は月別目標額に達しないものを示す

戦時農園

戦時農園と放談協同で募
集したものです。戦時下の育
児は次々に発表します。

頼母しい戦争生活例 當選発表
わが隣組の

隣組共同耕作の喜び
農園市加賀野十三 根本 まさ
私達の住んでゐるところは盛岡市内でも町はつれに近い閑静な所です。九軒の隣組の丁度中央に約百坪ばかりの空地があります。私達はこの空地を利用して、去年の春とはいへまだ斑雪のある三月半ばかり共同耕作をはじめました。

幸ひ組の中に比較的時間の餘裕がつく男の方で、かうしたことによく慣れた方がります。横に根をほり、石かけやごみがあつたりして、紙を入れるのも中々一通りの骨折ではありませんでした。

その上、この組では殆んど全部が勤めに出る家庭なので、平生の手はありません。今まで紙子持の主婦達も、暇を練合せては手に豆を拵へ、茨に傷つきながらも、誰も彼も増産の希望に燃えて楽しく働きました。日曜には国民學校の子供、ま

だ學校にゆかない幼児までも、お母さんと一緒にたつて、石を拾ひ草を抜いて、力相應のお手伝ひをしました。かうして耕されたところへは、片端から下肥、堆肥、木灰などの肥料を入れ、種子が播かれてゆきます。東北の櫻咲く五月のはじめには、まづ第一の収穫として山菜がとれました。次ぎには大豆が初夏の食欲をそそります。照りつける陽光の下に馬鈴薯、甘藷の虫とりもしました。時々除草、施肥の中、妻があつて、馬鈴薯も意外の豊作で、一同嬉々として掘り上げました。

その他、隠元ほうれんさう、胡瓜、玉蜀黍、大根と、次ぎから次ぎと収穫は擧り、殆んど八百里の店頭を消した野菜類の新鮮なものを、絶えず九世帯五十人の家族が十分に恵まれることが出来ました。中でも、もぎ立ての枝豆を供へたお月見と、隣組全員の運動會を催した時、組長の家で掘りたての里芋と葱を入れたお味噌汁に、栗よりおいしい南瓜を煮て、子供達と一緒に走りまはつた後の空腹に味はつた美味は、今だに忘れられません。

道路利用の菜園

農園市加賀野下末吉町九七番地
梶川 森堂

鳥海がましくも農園と名付く。昨年、初夏、家庭毎に待避場を作ることにした。まづ先手を付けた私は、夥しい土のやり場に當惑した。農園にするにことにした。何分裏庭もない町のまん中、一應町會にも、説解を得て表通りに瓦礫、土俵をふちどりに、日曜毎に掘り下げる土を積み上げていたので、待避場と一坪農園が一緒に出来上った。

三十年も陽の日を拜まない砂あり、粘土あり、瘦せ土ありだから、土を積み合間には毎日出来る菜園の層(だし)を、魚皮、野菜屑や道路の馬糞等を埋めこんで、出来土と同時に二十日大根を播いた。何度かこ

の赤大根を収穫するうちに、隣組の人々も眼をつけてきた。九月、十月と私の農園は多種多様のさやかな作物をとりいれる傍ら、一寸位の大根が二十本育つた。これは三本だけ残したのだが、この三本の大根が育つにつれて、物珍らしい町の人々の眼を集めてきたが、十二月二十五日、かねてから隣組輪番の武運長久新願日参の當番が廻つて来たので、一番太いのを氏神様に供へた。町でその頃配給してゐたのに比べて、やゝ大きく、葉莖の艶々してゐるのは實に奇麗だった。

隣組は軒並の十戸九世帯だが、庭園を畑にしたのが四戸、別宅と同じやうなのが四戸、別に畑を持つのが一戸、且下計畑中が二戸あつて、今年は一ツ競争して作つてみようといひ合つてゐる。

いま私の戦時農園には、そら豆が三十五本花をつけてゐる。水菜と菜種に花が咲いて時は蝶も来るし、子供達は毎日暇に来る。そのほか、軒並には馬鈴薯が伸びて来たし、春菊、ほうれんさうも芽を出してゐる。かぼちやの種子を一袋買つて各戸に数粒づつ配つたから、この夏には一月に二、三個宛位はとるつもりであるが、皮算用にならねば幸ひである。お野菜は作りたいが土地がない。いや工夫の仕方でも立派な畑も出来るといふ非常によい思ひ付きのお話。足りぬくは工夫が足りぬと申しますが、かうした實例はぜひ學んでいきたいと存じます。たゞ交通に支障の起らないやうに注意することが大切でせう。なほ、土の厚さは少くも

一尺程度の欲しいものです。

農園市加賀野下末吉町九七番地
松島 千枝子

私の家の前に山とはいへない程の小高い丘があります。赤土のボロ／＼と年中くづれ落ちてゐる荒れた丘です。ところが一度その丘に登つた者は、皆そこに青々とした小松菜や小麥、さては時季々々の野菜類が見事に出来てゐるのを見て驚かないものはありません。

ところが、この丘も一昨年の四月下旬頃は、現在の山など億ぶ山もないボウ／＼たる敷でした。ゴミ捨場のない家庭で種々雑多なものを捨てて、まるでゴミ捨場のやうなところでした。その頃、この丘に登つた私の父は、そこにどこで捨てたか青

物づくの山から大豆の芽が五ツ
大ツ生き〜と出てゐるのを
見、隣組の人達で協力して開墾
したら案外できるかも知れない
と思ひ付いたのでした。

早速、翌月の賞會にその意向
をはかつたところ、野菜不足に
悩んでゐた組員の皆様の大賛成
を得て、早速父が地主にその丘
を借りにゆきました。

地主さんは「さういふ譯でし
たら地代は要りません。ご使用
下さい」と快く貸して下さいま
した。

そこで初めは一坪位作つて少
しばかりの小松菜の種を播き、
芽が出るかどうかと家の者はも
ちろん、組員の方々も様子を見
てをりました。するとゴミの堆
肥がよくきいたせぬか、結構な
出来ばえでした。

みな大喜びで「さう元氣を出
し、一坪の畠が二坪になり、三

坪になり、また小松菜が不斷草
になりかほちやになり、豆類は
おろか小麦、さつまいも等まで
作るやうになりました。

かうして家では野菜不足は見
亦に解消したばかりでなく、東
京の親戚の方達が来た折には、
僅かにもせよ土産に持たせてや
れるやうになりました。

「まあ、そちこちに、ゴ
ミ捨場としてそのまゝ、近所迷
惑のマトになつてゐる空地が残
つてゐるのではないでせうか。

心にかけるが、お互に手
を出し兼ねてゐるといふこと
は、時局にお互の恥です。こ
のお話のやうに、「大仕事でし
たわね」と出来上りの喜びを共
に喜び、野菜の増産に、健康増
進に、心を合せて明日といは
ず、さあ、今日からでもゴミ捨
場を退治いたしませんか。

左の當選者の分は紙面の都合で割愛しました。

荒地を隣組農園に
大 中 隆 夫
山梨県甲府市元町二丁目二十一

花園が農園に
和智みさを

次ぎの募集課題

一、隣組や部落で申し合せ實行してゐる
生活刷新の實例
長袖をやめ、モンペをはくとか、虚禮の廢止を實行し
たとか、その他積極的な實例

二、職場をもつ主婦の體驗
職場をもちながら、例へば買物とか、洗濯とか、洗濯
りとか、育児とか、家庭の仕事とどんな風にやり抜い
てゐるか、その實例

原稿 四百字詰 二枚
締切 六月五日(土)
宛名 東京市麹町區内幸町日本放送協會演説部「戦時生
活刷新係」
発行 昭和六月下旬(ラジオはその前後の(午前九時)「戦時生活刷新
の時間」の放送
注意 原稿には住所、氏名をうり、発表希望は必ず書入れ
て下さい。採用の分には、放送協會並びに情報局週刊課
よりそれと連絡をします。なほ原稿原稿は返さずしてしま
せん。

生産擴充計畫問答

企畫院

物動計畫との關係

問 生産擴充計畫と物動計畫との關係は
どういふことになつてゐますか。

答 生産擴充計畫と物動計畫との關係
をお話するためには、先づ生産擴充計
畫がどういふふうになつてゐるかを
お話しすることが必要でせう。生産擴
充計畫は、これを生産計畫と設備擴充
計畫とに大別できますが、生産計畫に
ついていひますと、計畫品目は時局下
最も緊要な物動物資と、これら物資の
生産に緊要な船舶、鐵道車輛、自動
車、電力等でありますから、本計畫に

おける生産目標の達成如何は、直ちに
物動計畫の基礎を左右することになり
ます。

戦争初期の物動計畫では、供給力の
内容として、生産のほかに輸入といふ
手がありました。今日では完全に自
給自足の物動計畫となつてをりますの
で、物動計畫における配當の基礎とし
ては、生産がその主な部分を占めてを
ります。この意味で、生産擴充計畫は
物動計畫と完全に表裏一體の關係を
なすものといふことが出来ます。

の戦ひであるといはれてをりますが、
この國防生産力を擴充強化してゆく
のが生産擴充計畫の重要な一面です。
どんな産業を、また、どんな工場、鑛山
を擴充してゆくかは、すべて生産擴充
計畫で決定されるのですが、これと物
動計畫との關係を申しますと、物動
計畫では、當年度の物資の動員配當計
畫が中心となつてをりますが、生産擴
充計畫は常に一年、二年、ものによつ
ては數年後の國防生産力の趨向を眺め
て計畫的に擴充建設してゆく、そして
これは、次年度以降の物動計畫の基礎
となるものです。

物的戦力の増強

問 本年度の生産増充計画の特質は、どんな点にありますか。

答 本年度計画の特質は、大東亞戦争の現段階に對處して敵の反抗を徹底的に破砕し、皇國の勝利を決定的に導くために必要な物的戦力を、飛躍的に増強することを至上目標として立案されてゐる点でありまして、資材、資金、勞務、輸送力、電力等、各般の國家施策は、すべてこの目標達成のために結集されてゐるのです。

問 それでは、その物的戦力の増強といふことは、具體的にはどういふことになりますか。

答 焦點としては、鐵鋼、石炭、輕金屬、飛行機、船舶の飛躍的増産を圖るといふことになつてをりますが、しかし、これ等の五大重點産業の生産力を擴充するだけでは、決して當面の物

すか。

答 資材の面から考へてみますと、いふまでもなく、生産の擴充には生産設備の維持補修や、生産品の包装、容器や船舶、車輛、機械等の製作材料や工場、事業場の擴充用等に随分と多量の資材を要します。この龐大な資材を、軍需や一般民需等の要求と睨み合せて確保することは、物動計画の重要な任務であると同時に、これを最も有効に使用し、生産力化してゆくことが、生産増充計画の重要な任務となるわけです。

要するに、物動計画における供給力を確保し、その基礎を擴充してゆくのが生産増充計画であると共に、生産擴充計画の遂行を資材的に確保するものが物動計画といふわけで、兩者は、この點でも唇齒車の關係にあるわけですから。

にしてをります。

第二は、消極的に輸送力を増強すること、即ち輸送力を出來るだけ節約したり、限られた輸送力を最も有効に利用したりして、生産を増強することでありまして、

四面環海のが國では、原材料その他、生産上必要な物資で、海上輸送に依存するものが非常に多いのです。そこで、極力海陸の輸送力を増強すると同時に、特にこの海上輸送力を節約するため、

第一は、國內資源を出來るだけ増産することが必要であります。本年度においても、國內における鐵礦石、砂鐵、非鐵金屬等の増産は頗る大きなものがあります。さらに、石炭等についても、出來るだけ消費地に近い鑛山の開發増産を重點的に考へてをります。例へば、九州炭、常磐炭、宇部炭等の増産がその一例です。

これを過去の例にみましても、わが國の物動計画は、當初は歐米諸國からの輸入に依存するところが相當大きかつたのですが、昭和十三年度から生産擴充計画を實施し、國防資源については、連かに外國依存から脱却して、大東亞における獨立自主の生産力を確立することに全力を傾注して來ましたので、その後、米英等の經濟壓迫がその度を加へて來たにもかゝらず、わが國の物動は、この自給生産力を基礎としてびくともしない物動に變つて來たのです。

今日における重要物資の生産力の擴充は、わが國力の飛躍的増強をもたらすと同時に、後年度における物動計画を更にゆとりのあるものにする事になり、この意味では、生産擴充計画は、物動計画の基礎を培養するものと云はねばなりません。

問 生産用資材の配當はどうなつてをりますか。

答 戦時下における物的戦力の増強には、結局、輸送力の増強がその根本となりますから、本年度の計画でも特にこの點を重視してをります。これを具體的に申しますと、

第一は、積極的に輸送力を増強する點でありまして、これがためには、極力澤山の船舶と車輛を造ること

そこで本年度の計画では、航空機、船舶等の超重點産業を中核とする一連の重要關聯産業を綜合的に考へて、全體的に戦力増強となるやうに計畫してをります。

問 輸送力の増強については、どう考へてをりますか。

答 戦時下における物的戦力の増強には、結局、輸送力の増強がその根本となりますから、本年度の計画でも特にこの點を重視してをります。これを具體的に申しますと、



なほ、大陸方面における自給原料による軽金属の増産等も、すでに着々と進行してありますが、すべて同じ考へ方に基づくものでありません。

均整ある生産へ

問 均整のある生産規模といふことが強調されておりますが、どういふことでせうか。

答 それは加工産業と基礎産業、言葉を変えて言へば、關聯産業相互の間に均整のとれた生産擴充計畫を考へてゆくことと、軍需産業と民需産業、例へば、食糧の増産に必要な肥料等のやうなものとの間に均整のとれた計畫を考へてゐるといふ意味です。要するに戦力の増強は、これらのいろ／＼な産業間に十分均整のとれた綜合計畫を樹てて實施してこそ、初めて可能だからです。

この意味からいつて、例へば五大産業は、もとより超重點には相違ありませんが、これ等の産業と他の重要國防産業との間に、密接な關聯性のあることを十分留意する必要があるわけです。

産業整備との關係

問 産業整備と生産擴充とは、どんな關係にありますか。

答 戦時下における生産擴充の重要なねらひの第一は、最小の資材、原料、勞力、輸送力等をもつて競争遂行上重要な物資を最大に生産することです。これには立地的に、或ひは能率的に、或ひは技術的にみて、優秀な企業にその生産を集中する必要があることは當然ですが、その反面、遊休企業を生ずることも亦やむを得ないのです。國家としては、この遊休設備を出来るだけ緊急に、生産増強の必要な重點産業の方面に轉用すると同時に、轉用

の不可能なものは屑化して、鐵鋼、銅等の競争遂行上に緊要な物資の増産に充て、これを出来るだけ戦力化してゆかねばなりません。こゝに産業整備の必要が生じて来るわけでありまして、本年度の計畫においても、これによる相當量の屑鐵、その他の回收を生産に見込むと同時に、轉用の可能なものは、出来るだけ緊急擴充部門に轉用し、生産の増強を図ることにしてゐるのです。

問 いま政府は盛んに鐵鋼等を回收してありますが、回收物件がなくなった後の生産はどうなるでせうか。

答 その點は絶対に心配ありません。政府では、すでにこれに對する萬全の對策を講じておられますので、鐵鋼等なども、たとへば本年度以降の屑鐵の回收が減少しても、生産はますます増加するやう有效な方法が講じてありますから、少しの心配もなく、この際徹底的に屑鐵、銅、鉛等の回收にご協力願ひ

たいのです。

生産品目の改訂

問 こんど生産擴充品目が改訂されたやうですが、どんな理由からですか。

答 現計畫品目は大部分、昭和十四年一月に決定されたもので、その後一部の増補改訂をしましたが、さらに今回情勢の推移に即應して相當範圍の改訂をいたしました。

問 追加されたものについて、具體的にお話し願ひたいのですが。

答 新たに追加されたものは

- イ 總トン數五百トン未満の鋼船と木造船
- ロ 硝酸
- ハ 有機合成品(フタル酸、メタノール、アセトン等)
- ニ 鋼索(造船部門に追加)
- ホ 電機(ビテコックスと水晶石(電機部門に追加))
- ヘ アンチモニーと硼砂(重要國防部門に追加)

ト 風力機 水力機 運搬機 電氣計測機器 電氣通信機器(ラジオ受信機を除く)と試験機(重要國防部門に追加)

チ 含水アルコール(石油部門に追加)

リ 石灰窒素(化學肥料部門に追加)

ヌ デイゼル自動車と修理用部品(自動車部門に追加)

ヘ デイゼル自動車と修理用部品(自動車部門に追加)

ト 小型車輛と信託保安裝置(鐵道車輛部門に追加)

ナ 重要機械部門では、これまで特定の擴充工場だけを本計畫の對象としてゐたのを、この機会に精密機械、産業機械と電氣機械各統制會に單獨加入してゐる工場は、計畫機種の生産者である限り、すべてこれを計畫産業として取扱ふことにしました。

以上が今回の品目改訂の概要ですが、改訂の結果、計畫品目は相當増加しました。これは戦時下當然の趨勢だと

思ひますが、生産擴充計畫は、この新たに編成された重要國防産業と基礎産業を中心に、重點的に、計画的に、生産の確保増強を期してゆくことになつてゐます。

問 本計畫の實施に當つて、國民としての心構へは。

答 だいたい去る五月三日の新聞に發表された企業院總裁談に盡きると思ひますが、要するに、本年度計畫の完遂は、決戦態勢下の國民に課せられた絶對の要請です。

戦時下、輸送、勞務、資材、動力等の面においては幾多の困難が伴ふであらうことは、當然豫想されることですが、刻下の要請の前には、不可能を可能とする精神力を揮つて、あらゆる障礙を克服し、断じて遂行せねばならないのです。企業者、勞務者各位の更に一層の奮起を要望すると共に、國民各位のご協力を切に願ひします。

16		17		18		19		20		21		22	
68222	92448	7604	68777	4475	37178	81280	77719	11283	20193	50210	74923	2000	86216
66722	92007	7764	63485	3042	27755	25283	77719	25283	20525	31089	74731	2678	87041
67377	92116	7962	66317	2524	27911	21886	77719	25283	20777	31112	74746	2678	87233
67639	92225	8426	66807	3308	27441	20255	78455	25283	21447	31112	74746	2678	88718
67656	92334	9974	67065	6682	28234	21141	30889	26313	21217	31112	74746	2678	89055
68136	92970	10591	69846	6780	28701	22229	31543	21617	21617	31112	74746	2678	89437
68638	93144	14078	70594	6444	29317	23729	31473	22671	23672	31112	74746	2678	90060
68658	93144	14078	70594	6444	29317	23729	31473	22671	23672	31112	74746	2678	90060
68658	93144	14078	70594	6444	29317	23729	31473	22671	23672	31112	74746	2678	90060
68658	93144	14078	70594	6444	29317	23729	31473	22671	23672	31112	74746	2678	90060
68658	93144	14078	70594	6444	29317	23729	31473	22671	23672	31112	74746	2678	90060

「激戦中」と 戦後の我等

「激戦中」と戦後の我等。アリニューシヤンでは皇軍將兵が上陸した敵兵と激戦中だといふのに、劇場、映画館は超満員を呈し、飲食店の前は長蛇の列を展はす。餘りにも國民は皇軍に頼り、戦果に押れずてあはしないだらうか。聞ふ將兵の心を心とする意味で、せめて「目下激戦中」といふやうに、明らかにならば、一定の期間、歌舞音曲の禁止は勿論、あらゆる消費面の一齊締め出しを提唱したい。
（東京 小池生）

國民合唱の歌詞訂正

五月十九日號の國民合唱の歌詞訂正。百原の原稿に誤りがあるはの誤りに訂正いたします。

五月分文部省推薦圖書

書名	編著者	定価	發行所
天平の文化	朝日新聞社	A五	朝日新聞社
黄土地	朝日新聞社	A五	朝日新聞社
飛騨の女たち	江島三枝子	B一〇	朝日新聞社
少年戦車兵	本間繁	B一〇	朝日新聞社
日本の機關車	野村胡堂	B一〇	朝日新聞社
江田島	藤岡啓	A一〇	朝日新聞社
考へる樂しさ	藤原安次郎	B一〇	朝日新聞社
膨らんだ難儀	山北清次	B六	朝日新聞社
マケルモノカ	野村胡堂	B六	朝日新聞社

してこそ、前線と後方のつながりは鉄石となり、皇軍の精強はいよゝその光を放つのですが、戦後の私どもとしては、消極的に自腐するにとまらず、個人として、力を出して積極的に、前線の將兵の苦闘に應へたいと思ひます。

週報

昭和十八年五月二十六日發行

印刷所：東京市神田區大塚町一丁目一番地
東京市神田區大塚町一丁目一番地

定価：一部五錢（送料一錢）

注意：本誌より轉載の場合必ず「週報」何號より轉載の旨を明記し、その轉載料を編輯局に郵便で三割郵送下さす。

本誌記事の懸念は御断り致します。

掲載記事に対する御感想や訂正を編輯局に御見送り願います。

本誌を他へ転送の場合は郵税一紙

露光量違いにより重複撮影

4月抽籤 貯蓄債券 當籤番號表(其ノ五)		支拂開始期 5月1日		支拂場所 日本勸業銀行本支店、出張所、代理店及集配郵便局									
全當籤番號掲載紙、官報、債券時報號外(番號表中大字・同別、括弧内金額・割増金)													
昭和18年4月 大藏省・日本勸業銀行													
18258 18259 18318 18415 18571 18604 18605 18606 18607 18608 18609 18610 18611 18612 18613 18614 18615 18616 18617 18618 18619 18620	46063 46463 47244 47728 48835 49069 49070 49071 49072 49073 49074 49075 49076 49077 49078 49079 49080 49081 49082 49083 49084 49085	77031 78106 78211 78474 78506 78507 78508 78509 78510 78511 78512 78513 78514 78515 78516 78517 78518 78519 78520 78521 78522	99215 99273 99376 99388 99494 99495 99496 99497 99498 99499 99500 99501 99502 99503 99504 99505 99506 99507 99508 99509 99510 99511	68446 69276 71291 72504 73589 74102 75563 77354 79428 83659 83760 86316 87041 88718 89235 89426 89507 90060 90613 90610 90611 90612	12258 12383 12533 12688 12825 12975 13125 13275 13425 13575 13725 13875 14025 14175 14325 14475 14625 14775 14925 15075 15225 15375	11280 11430 11580 11730 11880 12030 12180 12330 12480 12630 12780 12930 13080 13230 13380 13530 13680 13830 13980 14130 14280 14430 14580	7 7	12258 12383 12533 12688 12825 12975 13125 13275 13425 13575 13725 13875 14025 14175 14325 14475 14625 14775 14925 15075 15225 15375	11280 11430 11580 11730 11880 12030 12180 12330 12480 12630 12780 12930 13080 13230 13380 13530 13680 13830 13980 14130 14280 14430 14580	7 7	12258 12383 12533 12688 12825 12975 13125 13275 13425 13575 13725 13875 14025 14175 14325 14475 14625 14775 14925 15075 15225 15375	11280 11430 11580 11730 11880 12030 12180 12330 12480 12630 12780 12930 13080 13230 13380 13530 13680 13830 13980 14130 14280 14430 14580	7 7

五月分文部省推薦圖書

天平の文化 著者 天 定價 發行所
 真土の文化 著者 天 定價 發行所
 少年の文化 著者 天 定價 發行所
 ... (List continues with titles, authors, prices, and publishers)

注意 御所込申 價定 一部 (五銭) 五銭

昭和十八年五月十六日發行

印刷所 内閣印刷局

激戰中
 後の状況
 ... (News snippet about military operations)

人的な慰勞や享樂を断ち
 ... (Text snippet about morale and leisure during war)

露光量違いにより重複撮影



編輯局報情

週報

號日二月六

昭和十一年十月一日第三種郵便物認可
昭和十八年六月二二日發
（毎週一、四、水曜日發行）

國家總動員計畫
國民動員計畫問答

戰力增強と安全生産

山本元帥に續け

開戦以來の海軍綜合戰果
海軍豫備學生の手引
海軍少年飛行兵

大東亞戰爭の現勢

五錢

346號

週報 國民翼贊の道るべ

懸賞 募集

課題 郵便貯金と我が家の生活設計

内容 二百七十億貯蓄を完遂するには國民一人一人が決戦段階に即應した生活設計を工夫して、現在より以上の貯蓄をどこから生み出すか、各種の郵便貯金制度をどう活用して行くか、を再検討して一段と堅實に貯蓄を實踐しなければならぬ。その意味で實行性のあるものを御投稿下さい。



制限 字数には制限なきも必ず半紙大原稿紙使用のこと
審査 貯金局、大政翼賛會
賞金 入選五篇、百圓（國債一枚）宛
佳作五篇、五十圓（國債一枚）宛
宛切先 貯金局規畫課第一獎勵係
締切先 昭和十八年七月三十一日
発 昭和十八年九月一日新聞等にて發表
その他 (1)住所氏名を明記すること
(2)応募作品に對する一切の権利は貯金局に於て取得す

貯金局

報 昭和十一年十月一日第三種郵便物認可
昭和十八年五月二十六日發

（毎週一、四、水曜日發行）

内閣印刷局印刷發行

（判[A5]格規定國はさき大の書本）



情 報 局 編 輯

週 報

六 月 二 日 號

昭和十七年十月一日第三種郵便物認可
昭和十八年六月二日換
（毎週一、四、水曜日発行）

大東亞戦争の現勢

開戦以来の海軍総合戦果

海軍豫備學生の手引
海軍少年飛行兵

山本元帥に續け

戦力増強と安全生産

國家總動員計畫③
國民動員計畫問答

346 號

五 錢

週 報 民 衆 翼 贊 道 的 的 報 週

報 昭和十七年十月一日第三種郵便物認可
昭和十八年五月二十六日換
行（毎週一、四、水曜日発行）

懸 賞 募 集

課 題 郵便貯金と我が家の生活設計

内容 二百七十億貯蓄を完遂するには國民一人一人が決戦段階に即應した生活設計を工夫して、現在より以上の貯蓄をどこから生み出すか、各種の郵便貯金制度をどう活用して行くか、を再検討して一段と堅實に貯蓄を實踐しなければならぬ。その意味で實行性のあるものを御投稿下さい。



制限 字数には制限なきも必ず半紙大原稿紙使用のこと
賞金 貯金局、大政翼賛會入選五篇、五百圓（國債一枚）宛
宛先 貯金局規畫課第一獎勵係
締切先 昭和十八年七月三十一日
発表 昭和十八年九月一日新聞等にて發表
その他 (イ)住所氏名を明記すること
(ロ)應募作品に對する一切の権利は貯金局に於て取得す

貯 金 局

内閣印刷局印刷發行

(判[A5]格規定國はさき大の書本)

露光量違いにより重複撮影

国民合唱
みたみわれ

海軍省軍楽隊編曲
大政翼賛會制定

正重に $J=72$

み た み わ れ いー
け る し る し あ り あ め つ ち の さ
か り る と き に あ へ ら く 念 へ ば

poco rit.

みたみわれ

御民吾

生ける験あり

天地の

榮ゆる時に

遇へらく念へば

(六月八日から十九日まで火木
土曜日、午後七時半より放送)

週報

大東亞戦争の現勢

陸軍省情報部：二
開戦以来の海軍総合戦果……………七
海軍へ志す人々の手引……………七
海軍豫備學生……………ハ
海軍少年飛行兵……………九
大本營海軍情報部
戦力増強と安全生産
厚生省：三
國民動員計畫問答 企 此 院：二七

週 間 日 誌

五月二十一日(金)
▽戦死の山本大將、大勳位功一級に敘せられ、元帥府に列せられ、特に元帥の稱號を賜はり、正三位に敘せられ、更に國葬を賜はる。
▽聯合艦隊司令長官山本五十六大將、前線飛行機上で壯烈なる戦死を遂げ四日、後任には古賀繁一大將補任され、大佐大、横須賀鎮守府司令長官には豊田副武大將補任する旨が発表。
▽ソ聯、國際共産黨を解散。
▽湖北作戦の戦果を大本營発表。
五月二十一日(土)
▽故山本大將、帝廟へ無言の凱旋。
五月二十四日(月)
▽アメリカ、フィリピン方面の海軍航空部隊、潜水部隊の戦果を報告し、戦況を詳しく発表。
五月二十五日(火)
▽大政翼賛會興業總本部の創立を閣議で決定。
▽昭和十八年度朝鮮米價格(買入)は、二十六日、賣出価格(買入)を閣議で決定。
▽取引所賣買方法を要綱を大本營発表。
五月二十六日(水)
▽故山本大將の國葬の期日(六月十日)、齋場(日比谷公園内)、葬所(東京市多摩區)が決定。
▽大政翼賛會副議長後藤文夫氏、國務大臣に就任する。